

平成20年度（2008年度）

# 事業報告書

（平成20年4月1日から平成21年3月31日まで）

平成21年5月26日

学校  
法人 **四條畷学園**

# 目次

## 1. 法人の概要

- (1) 教育理念
- (2) 沿革
- (3) 設置する学校・学部・学科等
- (4) 学校法人の組織構成図
- (5) 学校・学部・学科等の入学定員、学生・生徒・児童・園児数の概要
- (6) 役員・教職員の概要
  - ① 理事会
  - ② 評議員会
  - ③ 教職員数

## 2. 事業の概要

- (1) 法人
- (2) 大学
- (3) 短期大学
- (4) 高等学校
- (5) 中学校
- (6) 小学校
- (7) 幼稚園

Shijonawate Gakuen

## 3. 平成 20 年度決算の概要

- (1) 消費収入について
- (2) 消費支出について

# 1. 法人の概要

## (1) 教育理念

本学園は、大正15年、牧田宗太郎（当時四條畷中学校校長）と牧田環（当時三井合名重役・工学博士）の兄弟が、亡き母に対する報恩感謝の念をあらわすために四條畷高等女学校を設立したことに始まります。

宗太郎・環の母 栄子は、収入が途絶えがちになった牧田家を自ら働くことによって支える一方、教育への篤い信念を持ち続け、七人のわが子の教育に健闘苦勞を惜しまない女性でした。栄子は窮迫の中で大阪の女学校や小学校の裁縫教師となって家計を助け、三人の息子と四人の娘たちには次のように語って、学ぶことの大切さを教えたといわれています。「将来の日本はますます文明開化に向かうことであらう、その中に処して身を立てるには是非学問が無くてはならぬ、それには小学校や中学校位では所詮役立つものではない」と。

この母の偉大さに感謝していた兄弟は、母の恩に報いるためにはどのような道が最上であるかを熟慮しました。二人は、「子どもたちを本当に立派な人として育てることのできる力”を備えた女性を社会に送り出すこと。」、これこそが亡き母のもっとも喜ばれることだと思い定め、亡き母の慈愛と教育への篤い信念に報いるため、「報恩感謝」を建学の精神として四條畷高等女学校を設立し、女子教育にあたることになりました。

宗太郎・環兄弟が四條畷高等女学校を創設してから八十有余年、四條畷学園は幼稚園から四年制大学までを擁する総合学園となりましたが、この建学の精神は脈々として受け継がれ、各校園の教育理念ともなっています。

- 建学の精神 『報恩感謝』
- 教育の目標 『尊敬される人間』の育成

## (2) 沿革

大正 15 (1926) 年 4 月 四條畷学園高等女学校開校 (古川橋)



昭和 4 (1929) 年 6 月 本館竣工



昭和 11 (1936) 年 10 月 創立 10 周年記念祝賀会

昭和 16 (1941) 年 4 月 幼稚園開園

昭和 22 (1947) 年 4 月 中学校開校

昭和 23 (1948) 年 4 月 高等学校 (新制) 開校

小学校開校

昭和 39 (1964) 年 4 月 短期大学開学 (家政科)

昭和 42 (1967) 年 2 月 創立 40 周年記念 新体育館兼講堂竣工

昭和 47 (1972) 年 4 月 家政科を児童教育学科に転科

昭和 51 (1976) 年 11 月 創立 50 周年記念式典挙行

平成 元 (1989) 年 短期大学教養学科開設

平成 3 (1991) 年 臨床心理研究所 (ICP) 設置

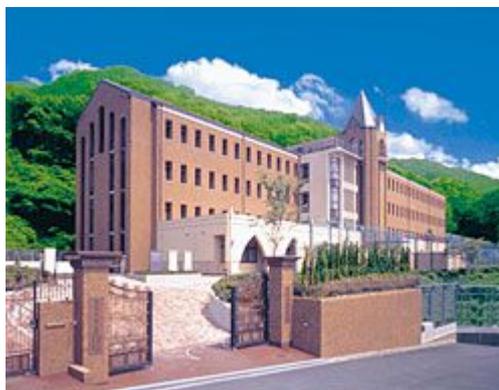
平成 8 (1996) 年 創立 70 周年記念行事挙行

平成 1 2 (2000) 年

短期大学国際コミュニケーション学科開設

平成 1 3 (2001) 年

短期大学リハビリテーション学科開設



平成 1 6 (2004) 年

短期大学ライフデザイン総合学科開設

同教養学科・国際コミュニケーション学科廃止

リハビリテーション総合研究所設置

平成 1 7 (2005) 年

大学開学

平成 1 8 (2006) 年

創立 8 0 周年記念行事挙

短期大学清風学舎竣工

Shijonawate Gakuen



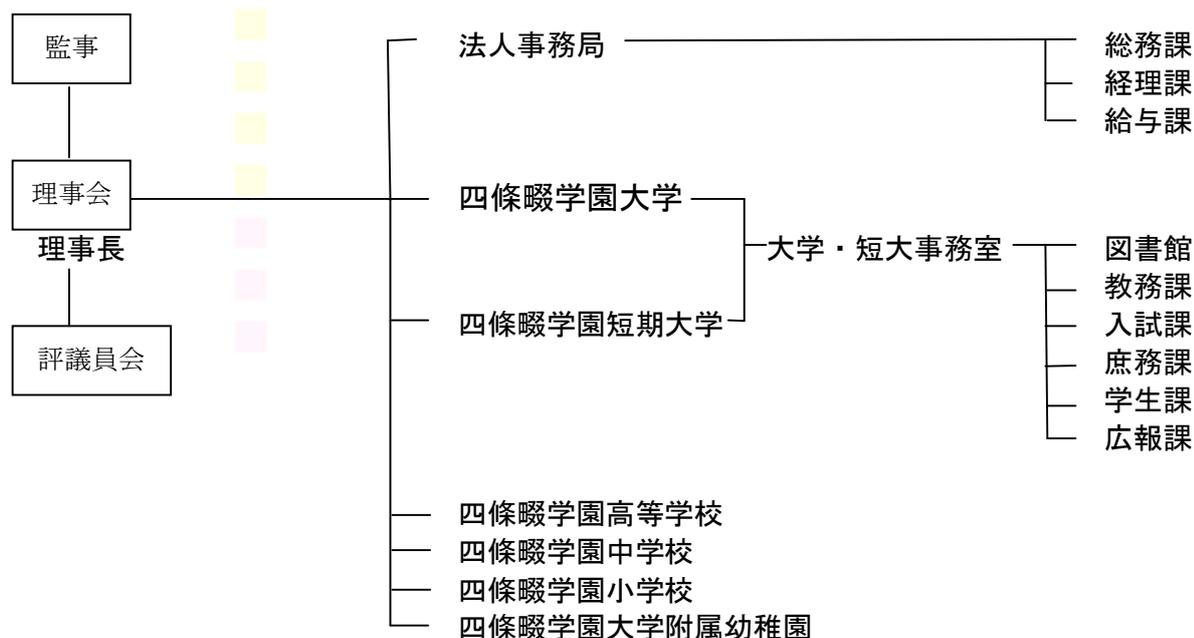
平成 1 9 (2007) 年

短期大学介護福祉学科開設

### (3) 設置する学校・学部・学科等

- ①四條畷学園大学                      学長：廣島 和夫  
 学部 リハビリテーション学部  
 学科 リハビリテーション学科
- ②四條畷学園短期大学                学長：廣島 和夫  
 学科 保育学科  
 ライフデザイン総合学科  
 介護福祉学科  
 リハビリテーション学科(H21年3月廃止)
- ③四條畷学園高等学校                校長：高山 光夫
- ④四條畷学園中学校                  校長：梶尾 晃
- ⑤四條畷学園小学校                  校長：北田 和之
- ⑥四條畷学園大学附属幼稚園        園長：中西 邦枝

### (4) 学校法人の組織構成図（平成20年5月1日）



(5) 学校・学部・学科等の入学定員、  
学生・生徒・児童・園児数の概要

平成 20 年 5 月 1 日現在

	学部・学科名等	定員		現員						合計
		入学定員	収容定員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
大学	リハビリテーション学部									
	リハビリテーション学科									
	理学療法専攻	40	160	41	44	39	43			167
	作業療法専攻	40	160	34	36	35	38			143
	合計	80	320	75	80	74	81			310
短期大学	保育学科	100	200	100	88					188
	ライフデザイン総合学科	100	200	97	104					201
	介護福祉学科	50	100	27	25					52
	リハビリテーション学科 (H17年募集停止)	—	—			2				2
	合計	250	500	224	217	2				443
高等学校	—	375	1,290	464	400	417				1,281
中学校	—	170	600	178	172	167				517
小学校	—	90	648	99	99	100	99	98	94	589
幼稚園	—	140	405	108	152	124				384
合計		1,105	3,763	1,148	1,120	884	180	98	94	3,524

(6) 役員・教職員の概要 (平成 20 年 5 月 1 日現在)

① 理事会 (平成 20 年度内異動を含む)

■理事 定員：6人以上9人以内 現員：9人うち外部理事(\*)：2人

理事長	川崎	博司	
理事	橋本	道雄	5/31 辞任
理事	伊泊	鉄夫	*
理事	清澤	悟	*
理事	廣島	和夫	
理事	石村	哲代	
理事	梶尾	晃	
理事	牧田	朝美	
理事	木寅	文雄	

■監事 定員：2人 現員：2人

監事	田中	脩雄
監事	廣岡	英雄

② 評議員会 (平成 20 年度内異動を含む)

■評議員 定員：13人以上32人以下 現員：27人

第1号評議員：1人 (1人以上3人以内) (法人職員)

木寅 文雄

第2号評議員：2人 (1人以上3人以内) (卒業生)

牧田 朝美、大西 寛治

第3号評議員：23人 (10人以上25人以内) (学識経験者)

橋本 道雄 (5/31辞任)、伊泊 鉄夫、清澤 悟、廣島 和夫、  
石村 哲代、梶尾 晃、清澤 正子、三村 龍三、西尾 信夫、  
佐藤 多加志、繁原 秀孝、横田 将憲、辻 一郎、米原 信夫、  
山内 康俊、小南 市雄、植田 恭平、森永 敏博、高山 光夫、  
北田 和之、中西 邦枝、尾村 和彦、中橋 健司

第4号評議員：1人 (1人) (理事長)

川崎 博司

### ③教職員数

平成20年5月1日現在

	教員						職員			
	専任	常勤	特任	非常勤	嘱託等	計	専任	嘱託	アルバイト等	計
法人本部						0	10		7	17
大学	20		4	21		45	3	2	5	10
短期大学	27		2	90		119	8	6	22	36
高等学校	44	7		49	5	105	1	3	11	15
中学校	30	7		4		41				0
小学校	25	3		4	3	35	1		5	6
幼稚園	10	2		3	7	22		1	19	20
合計	153	19	6	164	16	367	22	9	56	104

総合計：471名

Shijonawate Gakuen

## 2. 事業の概要

### 当年度に実施した主な事業

#### (1) 法人

##### ①規程類の整備

就業規則、資産運用規程等の規程類について整備または新規に作成しました。

##### ②健全な財務基盤の構築

帰属収支差額（帰属収入－消費収支）の赤字からの脱却のため、給与・手当の見直し、物品等購入の見直し等の経費の削減・抑制、建物設備への投資の抑制に努め、また教育内容の充実を中核とした生徒数増加への取り組み等による帰属収入増加を図りました。

##### ③IT基盤の整備

インターネットに接続する環境を全面更改し、一層のセキュリティ強化を図りました。また、全学で共通に使用できるサーバを新たに導入し情報を共有できる環境を構築しました。

##### ④建物設備の改修

学生・生徒等の安全を確保するために以下の改修工事を実施しました。

- ・ 高等学校東館の耐震補強工事
- ・ 高等学校体育館の耐震補強工事
- ・ 総合ホールの外壁補修工事

##### ⑤広報活動

学園新聞を全面リニューアルし、タブロイド判全8頁カラー版の「学園アンプレッセ」に切り替えました。（年3回、1回2万部発行）

当該新聞は在校生に加え、大阪府下等の公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、教育委員会、報道機関等計500箇所以上に毎回送付しました。

## (2) 大学

### ①国家試験合格率向上への取り組み

平成21年3月実施の第44回国家試験は理学療法士96.7%、作業療法士96.0%の合格率となりました。これは全国（理学療法士90.9%、作業療法士81.6%）及び大阪の合格率を上回る結果でした。

### ②教育内容充実への取り組み

世界作業療法士連盟（World Federation of Occupational Therapists: WFOT）により作業療法士の世界標準の教育内容を持つ養成施設として認定されました。

### ③カリキュラム充実への取り組み

カリキュラム検討委員会を設置し、単位数の見直し、オムニバス授業の削減、授業科目の見直し等に着手しました。次年度も引き続き検討を進めていきます。

### ④大学認証審査への対応

平成22年度の大学認証評価受審に向け、自己点検・自己評価委員会を設置し、まず平成20年度の自己点検・評価報告書の作成準備に着手しました。

### ⑤研究活動

国の科学研究費補助金の受給、㈱ワコールとの連携研究、教育内容改善の補助金受給等外部資金の活用を引き続き推進しました。

### ⑥募集活動の推進

健全な大学運営の前提となる学生募集対策については、教職員による90校近い高校訪問を行いPRに努め、業者経由の個別高校進学説明会にも積極参加を行うとともに、入試回数を1回増加する等の対策を行いました。

### ⑦完成年度の設置履行状況調査

昨年12月文部科学省の標記調査が実施されました。調査結果は、「学科運営等特に問題なし」との評価でした。

### ⑧大学の学生支援システム導入の検討・準備

21年度の教務システムの更新に合わせて、学校から学生への各種連絡、シラバスの掲載等学生に対するサービスレベルを向上させる為、「学生支援システム」の導入の検討・準備を行いました。

### (3) 短期大学

#### ①【介護福祉学科】完成年度の設置履行状況調査

昨年12月文部科学省の標記調査が実施されました。調査結果は、「学科運営等特に問題なし」との評価でした。

#### ②短期大学の活性化

大学・短大活性化プロジェクトチームを立ち上げ、短期大学の今後のあり方、学生募集活動等運営戦略の基本方針を策定しました。

#### ③学生募集（入学試験等）への取り組み

20年度よりAO入試を新たに導入しました。受験生は27名（保育学科 19名 ライフデザイン総合学科 8名）でした。

#### ④短期大学の学生支援システム導入の検討・準備

21年度の教務システムの更新に合わせて、学校から学生への各種連絡、シラバスの掲載等学生に対するサービスレベルを向上させる為、「学生支援システム」の導入の検討・準備を行いました。

#### ⑤FD活動への取り組み

平成19年度の取り組みについて「授業評価報告書-よりよい授業への改善を目指して-2007」、「平成19年度授業 についての満足度調査」を発行しました。平成20年度の取り組みについては「平成20年度授業参観報告書 前期と後期」としてまとめました。

また、FD推進担当教員が、関西FD連絡協議会からの情報を随時教授会等で報告し、全教員が共有しました。更に、主要なFD研修会などへ積極的に参加し情報を収集しました。

⑥【保育学科】保育者としての資質向上、就職率100%達成に向けての取組み

新入生対象の初期導入教育の一環としてステージアップセミナーを開設、1年間にわたり、漢字力などの基礎学力や保育技術アップ、美しい振る舞いの仕方など、様々な教養分野の充実を図りました。単位のない授業ですが、毎回70～80%の出席率があり、全回出席者も全体の20%以上に上りました。

⑦【ライフデザイン総合学科】社会人リフレッシュ教育講座の充実について

同教育講座は、近隣の幅広い方々に周知されることとなり、昨年度を大幅に上回る受講生の参加がありました。

#### (4) 高等学校

四條畷学園高校は「豊かな心と生きる力」の育成をめざし、尊敬される人間の形成を目標に教育を行なっています。平成20年度の事業計画に基づいて教育活動を行い、次のような評価を行いました。

①授業に創意工夫を行い、分りやすく、生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践する。

- ・学習指導の充実がうかがえるものの、今後さらに努力が必要です。
- ・基本的な授業態度の定着や、意欲を引き出し学力を向上させる指導技を高めることが大切と考えます。

②生活の基本である定刻登校・礼儀・服装・態度・マナー・清掃など、規律ある学習・生活態度を養う。

- ・基本的生活習慣を習得させようと指導していますが、出席不良者は低減してはいるもののまだ充分とは考えていません。
- ・朝の挨拶運動は定着しつつあります。良い習慣をさらに全体に広げたいと考えます。
- ・生徒指導事案は減少していないものの、退学者が減少していることは、教員が熱心に粘り強く指導していることの現われだと評価できます。
- ・茶道をより多くの生徒に体験させるべく正課の時間に一部取り入れ、品位の向上を目指しています。

③将来を見すえ教育内容の充実を図り、個に応じた希望・目標を実現させるよう進路指導を実施する。

- ・学園短大進学者 87 名、学園大学進学者 11 名 合計 98 名が内部進学高水準を維持しました。
- ・関関同立 8 名、産近龍甲 9 名は昨年を下回りました。特進コースの一層の充実が必要と考えます。

④学習・生活・進路など生徒の課題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行う。

- ・一人ひとりを大切にする指導によって、信頼感が高まっていますが、現状で十分とは言えません。
- ・学園に入学して良かったという評価も高まっていますが、保護者に比べて生徒の評価は低くなっています。
- ・教員の連携のもとにより良い指導を行い、チームで生徒を支え成長させたいと考えます。

⑤より良い人間関係を築いていく態度を養い、周囲の人を尊重し、人権意識を高める教育を実践する。

- ・日常から、ことばとコミュニケーションのあり方について、相手を尊重することを心がけ、人を不快にさせ傷つける言動をしないことを指導しています。
- ・学年ごとにテーマを決め、HR 活動等を通して人権教育を定期的を実施しています。

⑥志願者・入学者の安定的確保

- ◇志願者数は 1,715 名（専願 321 名）となり昨年比 119 名（専願 6 名）増えました。
- ・学校説明会の回数を増やし、また中学校訪問の学校数・回数を増加させました。
- ・地域の中学校との信頼関係をさらに強くすることを心がけて生徒募集を行いました。

## (5) 中学校

平成20年度中学校の教育目標に沿って、全教員が一致協力のもと努力を重ねました。一人ひとりを大切にしながら、①基本的な生活習慣を身につける、②確かな学力の習得、③共生の心を育てることを柱に、それぞれの希望の進路への目標達成に務めました。その結果、十分に目標を達成できた点、不十分だった点を反省し、次年度に向けて改善して行きます。

具体的には、今年度の主な目標であった4点は、下記のように受け止めています。

### ①基本的な生活習慣を身につける。

→挨拶、時間厳守、言葉遣い、欠席・遅刻、マナー、美化などまだまだ完全ではありません。次年度もより強化していきますが、教員みずから範を示すことが一番大切であると考えます。

### ②学力の充実

→解りやすい授業、習熟度別授業の徹底、遅進生徒の補習の充実など、課題は少なくありません。各個人が自己研鑽に務め、教科間及び教科内での連携を密にして、より効果的な指導方法を模索し、個々の学力を高め、進学実績の向上を目指します。

### ③健全な心身を培うと共に好ましい人間関係の育成に力を注ぎ、「共生の心」を育む。

→多彩な学校行事・活発なクラブ活動を実施・推奨し、これらを通して様々な経験・体験をさせ、実用的な知識の習得を図ると共に、友情・思いやり・協調性・我慢・礼儀・規範精神を身につけさせます。

各行事のねらい、クラブ活動のあり方を再確認します。

### ④不登校生徒への支援制度を確立する。

→今年度初めて、不登校・長期欠席など、登校できない生徒への支援対策として、学校・家庭・ICPとの相談システムを確立しました。初年度には、十分に効果を上げましたが、引き続き次年度も校務分掌の生徒相談に位置づけ、より充実したものになるようにしたいと考えています。

## ⑤中高一貫コースの開設に向けて

今年度第2学期より、念願の「中高一貫コース」のH22年度からの開設が決まり、中高プロジェクト委員会が検討を重ねています。メンバーは平常の業務をこなしながら、また中学と高校の行事や会議を調整しつつのプロジェクトであるため、担当教員には多くの苦勞をかけています。何がなんでも成功に向け、担当教員を中心に全教員一丸となって引き続き取り組みたいと思います。

## (6) 小学校

### ①教育環境設備の充実

- ・危険防止の為、遊具等の点検を学期ごとに実施しました。
- ・玄関、コンコース、靴箱の清掃について要員を配置しました。

### ②マナー教育の推進

- ・縦割活動を行事ごとに取り入れました。(体育会・活動発表会・卒業お祝い会など)
- ・マナーやルールの徹底のため、マナー目標を作成しました。
- ・毎朝、駅前と玄関に職員が立ち、挨拶運動と交通安全を実施しました。

### ③教育改革の進展

- ・教育の研究に力を入れました。(若手教師の力をつける)
- ・西日本私立小学校連盟の音楽の研究センター学校となっており、研究を深めました。当小学校において音楽研修会(西日本音楽会)を実施しました。
- ・西日本私立小学校連盟の学級経営の研究センター学校となっており、研究を深めました。当小学校において研修会を実施しました。
- ・国語の文章力をつけるため、秋田大学附属小学校京野教諭(小学校国語教育の第一人者)を招聘し、国語の模範授業と全教員との討論会を実施した。算数についてもお茶の水附属小学校の渡辺教諭を招聘し、教師の教育レベルのアップを図り、算数の模範授業と全教員との討論会を実施しました。
- ・英語については、学園小学校英語教育プランをすべて完成しました。
- ・算数については、単元導入部分を切り離し、前倒しにする学園小学校算数教育プランを一部作成しました。来年度も継続して研究していきます。
- ・ICTの教育充実と授業実施をしました。

#### ④各教室のレベルアップと充実

- ・教育レベルの向上のひとつとして、算数検定・日本語検定実施しました。
- ・体操教室を塾などの説明会で宣伝し、充実させました。
- ・ATR CALL 端末を増設しました。（3年から6年まで実施）

〈注〉ATR CALL は、ATR（国際電気通信基礎技術研究所）が20年におよぶ音声言語習得の研究成果と最新の音声信号処理技術を用いて開発した英語学習支援システムです。四條畷学園小学校は2007年4月より取り入れております。

#### ⑤学園中学・附属幼稚園との連携強化

- ・6年生に学園中学校教諭による授業を組み入れました。現在、カリキュラムを作成中です。来年度も継続して研究していきます。
- ・学園中学進学希望者確保と一部児童の進路指導を徹底しました。
- ・附属幼稚園からの内部入学希望者の情報交換をしました。

#### ⑥児童募集活動の強化

一般入学者確保のため、幼児教室などに行き、説明会を実施しました。

### (7) 幼稚園

#### ①正課改革への取り組み

ヨコミネ式保育を採用し正課の内容を全面的に入れ替えました。これにより、年少～年長まで毎日読み書き計算、かけっこ、体操、鍵盤ハーモニカ、英語を行いました。また、保護者の理解を深めてもらうため保育参観を毎月、実施しました。

20年度はヨコミネ式の成果を確実なものとするため夏休み期間中も16日間に渡り通常保育を実施しました。年長については「辞書引きワーク」（国語辞典を使用した言葉の習得教育）を1月より実施しました。

#### ②課外教室の強化

20年度より新たに体操教室を開講し、課外教室としては最大人数の170名以上の受講生を得ました。また、そろばん教育のノウハウ蓄積のため試行的に16名の園児に学園小学校のそろばん教室（課外教室）を受講させました。

### ③教諭の保育力向上への取組み

毎月1回、全教諭がヨコミネ式保育方法の指導を受け、指導法の習得・レベルアップに努めました。毎週1回、体操の指導方法についても専門家のアドバイスを受けました。また、夏休期間中に鹿児島県で横峯先生の指導を13名の教諭が直接受けました。

### ④園児募集活動・広報の強化

在園児の保護者・祖父母、見学者参加者等による口コミを重視し、見学会、保育参観を毎月開催しました。また、園だよりを全面更改しヨコミネ式の意義や教諭による子どもの成長の記録を毎回掲載する内容としました。

プレスクールに常時幼稚園教諭が入り、プレスクール生（親子）との信頼関係の向上に努め入園率の向上を図りました。

（19年度50%以下→20年度80%）



Shijonawate Gakuen

### 3. 平成20年度決算の概要

平成20年度決算の概要を前年決算との対比で、下記の通り説明します。

#### (1) 消費収入について

##### ① 学生生徒納付金

大学が完成年度を迎え学生数が増えたことなどにより、約70百万円の増加となりました。

##### ② 補助金

国庫補助金は大学の学生数が増えたことにより7百万円増加しました。一方、地方公共団体補助金は大阪府の経常費補助金等の削減(68百万円)がありましたが、高校の体育館・東館の耐震補強工事の補助金収入(48百万円)があり、全体として16百万円の減少となりました。

##### ③ 資産運用・売却収入

運用資産の積み上げや現金主義から発生主義への変更などにより、28百万円の増加となりました。

##### ④ 事業収入

音楽教室などの受講者数が増えたことにより、5百万円の増加となりました。

##### ⑤ 雑収入

大阪府私立学校退職金財団からの交付金が増えたことにより、11百万円の増加となりました。

##### ⑥ 基本金組み入れ

耐震補強工事により約150百万円組み入れましたが、小学校校舎新築計画の中止により、2号基本金400百万円を取り崩したことなどにより、345百万円の減少となりました。

## (2) 消費支出について

### ①人件費

前年度の特殊要因（役員退職金支払い）の解消、賞与削減および役員1名減などにより、197百万円の減少となりました。

### ②教育研究経費

総合ホールの壁面剥離調査・修理および損害保険料の3年分一括支払いなどにより、35百万円の増加となりました。

### ③管理経費

飯盛嶺東館工事中止に伴う違約金の支払いおよび中高一貫コース設置等に関するコンサル費用などにより47百万円の増加となりました。

### ④資産処分損

パソコンの処分損9百万円を計上しました。

Shijonawate Gakuen

以上より、平成20年度の消費収入差額は348百万円の収入超過となりました。